

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	11人	算数	11人	理科	11人
第5学年	国語	28人	算数	28人	理科	28人

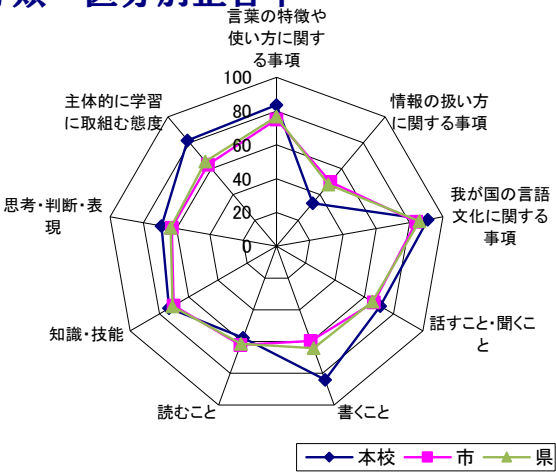
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	83.6	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	33.3	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.9	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	70.9	66.5	65.5
	書くこと	84.1	59.6	64.2
	読むこと	57.6	62.2	61.5
観点	知識・技能	73.4	70.2	71.1
	思考・判断・表現	69.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	81.8	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

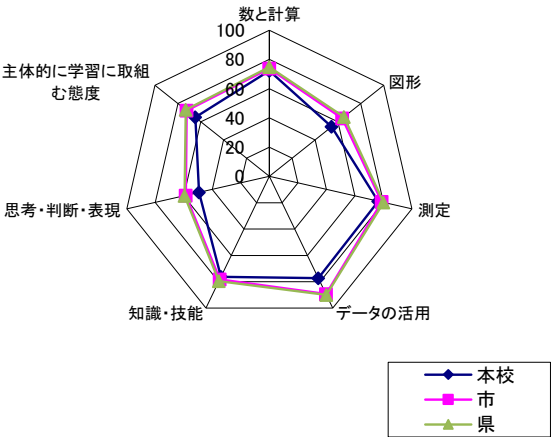
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回った。 ○漢字を書く問題では、県の正答率を上回っている。 ●主語と述語の関係、ローマ字で表記されたものを読むことについては、県の正答率と同程度であった。	・主語と述語の関係については、定着が図りづらいところでもあり、短い文章だけでなく、修飾語のある長い文章も用いながら主語と述語の関係を見つける学習を継続するようにする。ローマ字については、キーボード入力の練習と合わせながら身に付けさせる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均を下回った。 ●国語辞典の使い方については、県の正答率を下回っている。	・これまでは、教科書や漢字の学習に出てくる言葉は教師が伝えることが多かったことから、今後は日常的に国語辞典や1人1台端末を近くに置き、分からない言葉は自分で調べるようにさせる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回った。 ○漢字のへんやつくりの理解については、県の平均を上回った。	・新出漢字の学習の際には、同じへんや同じつくりの漢字を挙げさせたり、へんやつくりのもつ意味を考えさせたりしながら、漢字への興味・関心を高めるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を上回った。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、県の正答率を上回った。 ●調べ方について話し手が伝えたいことを捉える問題では、県の正答率を下回った。	・一分間スピーチで友達の話した内容に質問したり、文章の簡単な要約をする活動を取り入れたりして、話し手が伝えたいことを正確に聞き取る力を身に付けさせる。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均を上回った。 ○自分の考えを明確にして文章を書く問題では、県の正答率を上回った。	・問題に対して自分の考えをもつことと、それを文章で表す学習として、短い感想文(単元の初めや終わり)や意見文を書く学習を重ねることで、書く力の向上を図る。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を下回った。 ○物語の内容を読み取る問題では、県の正答率を上回った。 ●説明文の内容を読み取る問題では、県の正答率を下回った。	・説明文を読むことの面白さを味わわせるために、朝の読書の時間に教師が選んだ本のブックトークを行うことや、段落と段落の関係を意識した読み方を続けることで、説明文の読み取りの力を高める。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.3	73.8	74.8
	図形	54.5	63.7	65.3
	測定	76.4	78.9	80.1
	データの活用	77.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	76.4	78.3	79.5
	思考・判断・表現	49.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	64.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

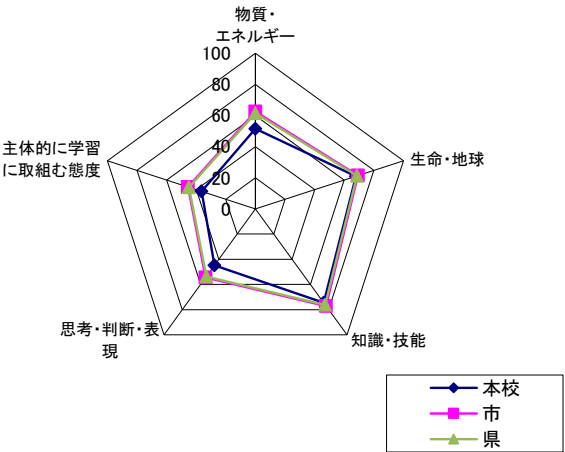
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均をやや下回った。 ○数直線上に示された分数を読み取る問題では、県の正答率を13.7ポイント上回っている。 ●4けた－3けたの計算では、県の正答率を下回っている。 ●□を使った加法の式に合った文章を選ぶ問題では、県の正答率を大きく下回っている。	・定期的にミニ計算テストや1人1台端末のAIドリルなどを活用して、復習の時間を確保し、基本的な計算力の向上を図る。 ・ノート指導や丁寧な位取りなどを定着させ、正確性が向上するように支援を継続する。
図形	平均正答率は、市や県の平均を下回った。 ○円の半径とコンパスの使い方について理解している問題では、県の正答率と同程度であった。 ●円の直径の理解については、県の正答率を下回っている。	・分度器、三角定規、コンパスの使い方などについては、その都度個別の支援をする機会を増やしていく。 ・実際に描く時間を朝の学習などでも設定しながら復習していくことで、理解の定着を図る。
測定	平均正答率は、市や県の平均を下回った。 ○地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では県の正答率を5.5ポイント上回っている。 ●1分＝60秒の関係の理解では、県の正答率を下回っている。	・復習の機会を作りながら、繰り返して指導をしていくことで定着を図っていく。また、1分間スピーチなどで60秒を体感できるような経験を生活の中で積ませる。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均を下回った。 ●棒グラフで1目盛りの表す数がわかる問題では、県の正答率を下回っている。	・表やグラフが表していることを理解できるよう、資料を読み取る活動を取り入れていく。1人1台端末のAIドリルやチャレンジシートを活用して、基礎基本の定着に努める。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.5	62.5	61.5
	生命・地球	67.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	74.5	77.2	76.3
	思考・判断・表現	44.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	36.4	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の平均を下回った。 ○糸電話の音の伝わり方をもとに、糸をつまんだ箇所を指摘する問題では、県の正答率を11.8ポイント上回っている。 ○自由に動けるようにした磁石のN極は北をさすことの理解では、県の正答率を上回っている。 ●車の動き方が風や向きの強さによって決まることの理解では、県の正答率を大きく下回っている。 ●電気を通す物と通さない物の理解では、県の正答率を大きく下回っている。	・既習事項との関連を図りながら、児童同士の対話的学習を促進し、深い学びにつながる指導法を研究する。 ・実験のまとめをするだけでなく、実験のデータから考える時間を確保し、事実や事象を詳しく整理する学習を取り入れて、力の向上を図る。
生命・地球	平均正答率は、市や県の平均をやや下回った。 ○昆虫のあしは胸についていることの正答率は100%で、県の平均を大きく上回っている。 ○棒温度計の目盛りの読み方の問題では、県の正答率を12.2ポイント上回っている。 ●虫眼鏡の使い方を身に付けているかを問う問題では、県の正答率を下回っている。	・身近なところに棒温度計や方位磁石などを設置して、子供たちの目に触れる機会を増やして、更なる定着を目指す。 ・観察の機会には、虫眼鏡を積極的に活用させ、繰り返して使い方の指導を行っていくことで、使い方を身に付けさせる。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」について、30分以上が63.6%と県の平均を19.7ポイント上回る。自分で持ってきた本や学級文庫など、空いた時間に近くにある本を読み親しむ習慣が身に付いている。今後は、読む力を高めるために、意図的にジャンルを指定したり、学年に応じた内容の本を読む時間を増やしていくようにする。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答が100%と県の平均を10ポイント上回る。小さな成功体験が積み重なり、大きな自信につながっていることが伺える。今後、学級活動や高学年になり学校行事で係の仕事など任された際にも自信をもって臨めるように、成就感を育てていくようにする。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答が100%と県の平均を20.2ポイント上回る。家庭や学校での声掛けや温かな見守りが自己肯定感を高めている結果と考えられる。児童一人ひとりの良さを伝え、互いに認め合う学級経営に努めるようにする。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答が54.6%と県の平均を29.5ポイント下回る。自分で考えてみたりやってみたりする前にあきらめてしまい、声を掛けてもらうことや支援を受けることに慣れてしまっている児童が多い。自分でやることの大切さを伝えつつ、見守る指導、待つ指導を行っていくようにする。

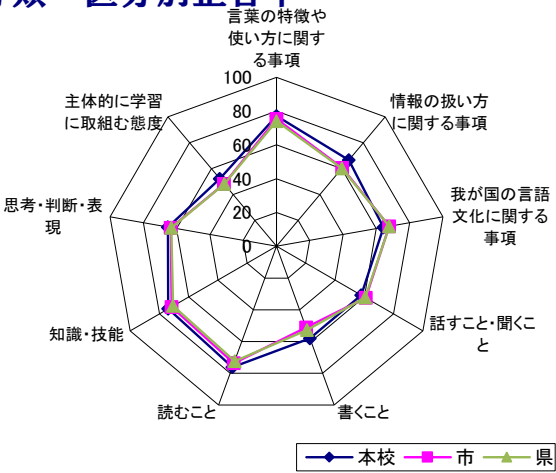
●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答が54.6%と県の平均を19ポイント下回る。話し合い活動では発言をする児童が決まっており、誰かが発言してくれるのを待っている児童も多い。構成的エンカウンターを行ったり、小集団活動を取り入れることで、グループ内のあらたな人間関係を構築し、安心して話し合いに参加できるようにしていく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)を読みますか」について、3時間以上が54.6%と県の平均を28.8ポイント上回る。地理的な要因から家で過ごす時間が多く、ゲームから離れられない児童も多い。「時間を決めてゲームをやる」「宿題が終わったらゲームをやる」など、ゲームをすることが前提となっている児童も多数おり、ゲーム以外の時間の過ごし方を示し支援することも今後の指導では重要になってくると考えられる。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.1	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	66.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	64.3	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	57.9	61.0	60.7
	書くこと	58.0	51.2	52.8
	読むこと	76.2	73.7	72.4
観点	知識・技能	74.0	71.7	70.6
	思考・判断・表現	65.2	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	52.1	48.2	48.1



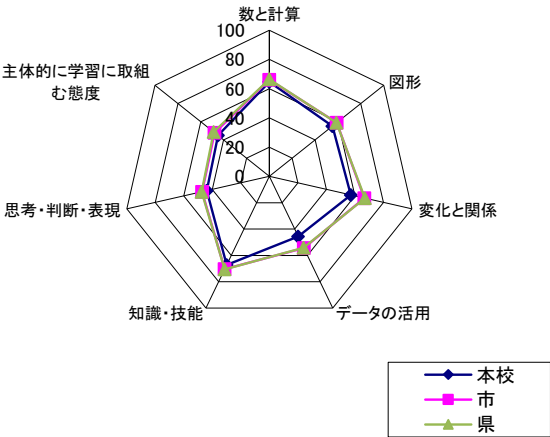
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	漢字を読んだり書いたりすることについての正答率は市や県の平均より上回っている。 ○第4学年に配当されている漢字を読む、漢字を書く問題では、正答率が100%であった。 ●連体修飾語に関する問題では、県や市を上回っているが、正答率が28%である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も音読や漢字練習、意味調べ等を通して語彙力や、漢字の読み書きの力を高めるように指導を継続する。 ・主語、述語の関係や修飾語がどの語を詳しくしているのかなどを理解が深まるような指導を工夫する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の正答率を上回っている。 ○漢字辞典の使い方や、説明文の内容を読み取る問題では共に81%を上回った。 ●情報の関係を理解し、理由や事例などを挙げて記述する問題は、市や県を上回っているが正答率が44%であった。	・理由や事例を挙げて、文字数の条件の中で書くことに継続して取り組ませることで、与えられた条件で文章を書くことに対する抵抗感をなくす。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の正答率を下回った。 ●ことわざは、普段の生活で使用する機会が少ないために、意味の理解まで至らず、正答率が低かった。	・ことわざを授業で取り上げたり、ことわざについて調べた自主学习ノートを紹介したりするなどして、今後もことわざや四字熟語等の伝統的に使われる語句に触れる機会を設け、さらに関心を高めたい。
話すこと・聞くこと	市や県の正答率と比べると約5%程度下回った。 ●話し手の工夫をとらえる問題に関しては、市や県を10%も下回った。	・朝の会でのスピーチの時間に、話し手の工夫を意識しながら話す指導をする。
書くこと	平均正答率は、市や県の正答率を上回った。 ○2段落構成や事実を伝える文章を書くことは市や県の正答率を10%以上上回っている。 ●無回答が14.8%と多い。 ●事実に加え、自分の考えを書くという条件になると、正答率が下がる。	・書く活動や学習の際に、自分の考えを踏まえて書く機会を増やすことで、書く力を伸ばす。
読むこと	平均正答率は、市や県の正答率を上回った。 ○登場人物の気持ちを考える問題は13%程度、段落相互の関係をとらえる問題は5%程度、市や県の正答率を上回った。 ●登場人物の性格を具体的に想像する問題は市や県の正答率を7%下回った。	・前後の文章や全体の話の流れから、登場人物の行動と性格のつながりを読みとることが習慣付くような学習活動を取り入れる。また、音読や読書等は引き続き継続していく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.7	66.1	66.4
	図形	55.1	58.9	58.8
	変化と関係	57.1	66.6	67.0
	データの活用	45.5	54.4	54.2
観点	知識・技能	67.2	70.4	70.6
	思考・判断・表現	43.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	44.9	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

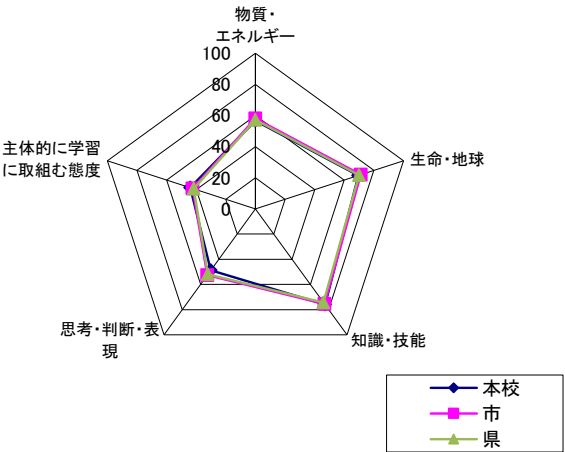
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の正答率を下回った。 ○分数の計算では、全ての問題において、市や県の正答率を上回っている。 ●概数の表し方は、県の正答率を20%下回っている。	・概数の表し方や言葉の意味を理解できるように、機会をとらえて数の大きさや表し方についての復習を取り入れる。
図形	平均正答率は、市や県の正答率を下回った。 ●複合図形の面積の求め方、立体の問題は市や県の正答率を、10%程度下回った。	・立体を構成している面や辺の関係について、復習し、垂直や平行の意味を理解させ、定着を図る。 ・作図に関しても、教科書の例だけでなく、様々な角度から見て考える問題に触れる機会を増やす。
変化と関係	平均正答率は、市や県の正答率を大きく下回った。 ○伴って変わる2つの数量の関係についての正答率は89%であった。 ●伴って変わる2つの数量の関係について式に表す問題の正答率は32%であった。 ●割合について立式する問題は市や県の正答率を10%程度下回った。	・もとになる値や比べられる値を文章から正確に判断できるよう、定期的に復習する機会を設けて、たくさんの問題に触れさせていくことで理解を深める。 ・伴って変わる2つの数量の関係を表した表を、様々な角度から見て規則性をも見つけていくことを習慣化していく。 ・2つの量の関係を立式する機会を増やしていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の正答率を大きく下回った。 ●折れ線グラフから必要なことを読み取る問題では市や県の正答率を15%程度下回った。	・たくさんある情報の中から必要なものを選び、それを活用して説明する機会や対話的授業を意図的に設定し、求め方を言葉や図、式を使って説明する力を伸ばしていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.6	58.1	57.2
	生命・地球	69.5	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	48.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	44.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の正答率を少し下回った。 ○基本的な内容については理解をしている。 ●科学的思考が必要な問題については、市や県の正答率を下回った。 ●温度とものの体積の関係は、市や県の正答率を20%程度下回った。	・学習したことを実生活に結び付けて考える機会を設けることで、理解を深める。 ・実験の結果についてはよく理解できている。しかし、実験結果を考察しどのようなことが導きだされるかなどを考えることに課題が見られるので、まとめや考察を行う時間を確保し、事実を関連付けて整理する力の向上を図る。
生命・地球	平均正答率は、市や県の正答率を少し下回った。 ○身近な自然に関する事項は、市や県の正答率を上回った。 ●雨水のゆくえの記述問題は、市や県の正答率を15%程度下回った。	・筋肉や関節といった動物のからだのつくりや雨水のゆくえの基礎的事項が定着するよう、復習する機会を繰り返し設ける。 ・日常生活においても、理科的な視点を持たせたり、理科にかかわる名称を意識させたりすることなどを通して、知識の定着や思考力の向上を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「家で、テストで間違えた問題について勉強している。」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある。」という質問に対しての肯定割合が県の平均を上回っている。児童の学習に対しての意欲が高く、真面目に取り組んでいることの表れであると言える。また、家庭学習に関しても決まった時間に取り組むなど、望ましい生活習慣が定着している児童が多い。

○「毎日、朝食を食べている」に「はい」と回答した児童が100%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心掛けている」の肯定割合が県を上回るなど、規則正しい生活習慣が身に付いている児童が多い。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の質問では県と同等、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の質問では、県を少し下回る肯定割合であり、今後伸ばしていきたい項目である。現在学年内には小集団での意見交換は好むが、大勢の前になると委縮してしまう児童も見られる。また、話を聞く立場になると最後まで話を聞けなくなる傾向も見られ、課題だと言える。自分の考えを話す機会を意図的に増やすなど、自分の考えを発言して学習に参加する意識もより一層もたせていきたい。

●テレビゲームをしている時間が平日3時間以上の児童が4割になっていること、普段の生活では、新聞を読んでいる児童がほとんどいないことは活字離れにつながっている原因の一つであると考えられる。新聞を題材にした学習を取り入れたり、生活習慣を見直す機会を上手に活用したりしながら、生活習慣の見直しを図る。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的に課題に取り組んで解決していくための取組 ・学習場面においてICTを活用するための取組	・朝の会などに「スピーチの時間」を設け、話す・聞く経験を重ねられるようにする。 ・各教科で、考えたことを書く活動を意識的に取り入れる。 ・授業実践する際、1人1台端末を活用する意図を明確にして授業をデザインする。	・「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意である」の肯定的回答は、4年生54.6%、5年生53.6%であった。 ・国語の「書くこと」についての正答率は、4年生84.1%、5年生58.0%とともに県の平均を上回った。 ・「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は、4年生54.6%、5年生78.6%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
問題文を読み、問われていることを理解して考えたり、問題に合った解答を表すことに課題が見られた。	・書く力を高めるための取組 ・振り返りの質を高める指導法の研究	・条件に合わせた解答ができるよう、様々な教科で学習や場面を利用して書き方の形式を示しながら書かせたり、自分の考えを書いたりする活動を意図的に取り入れていく。 ・各単元の終末を中心とした時間で、何が分かったのか、何が疑問点なのかを様々な方法で振り返らせ、主体的な活動を促すとともにその指導法を研究し共有していく。